

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 3月 14日

事業所名 放課後等デイサービスちゅらら

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標 | |
|------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----|---------------|-----|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 2 | 2 | | 人数や活動内容によって部屋を使い分けている | | |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | 1 | 2 | 1 | | 児童の状態によって必要なマンツーマン支援が難しい場面がある⇒職員間の情報共有や連携を密に行っていく | |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | | | 4 | 階段や室内の段差は声かけを行ないながら必要に応じて手添えを行っている。 | 手すりはあるが階段を利用しなければ事業所玄関に行けない、トイレ入り口に段差がある⇒現在、新しくバリアフリー化した事業所を建設中で、次年度には移転を予定している。移転までの期間は声かけ手添えを行いながら児童の安全に努めていく | |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 2 | 2 | | 共通理解を持って改善が図れる様に職員会議やミーティングを通して、話す時間を設けている | | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 2 | 2 | | 保護者向け評価表と別に、展示販売会でアンケートの協力を依頼している | 保護者等の意向の把握に努めているが、業務改善が未達成な面がある⇒保護者の意向に寄り添った業務改善に努めていく | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | | | 2 | 2 | | 文書として配付は行っていたがホームページには未掲載⇒ホームページにも掲載し、幅広い方々が閲覧できるようにする |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | | 3 | 3 | 展示販売会に来所する近隣の方々や学校関係者等の来所者にもアンケート配付し意見を頂いている | 第三者による外部評価は取り入れられていない⇒法人の別部署では第三者による外部評価が取り入れられている為、当事業所でも今後検討していきたい。 |
| 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 1 | | 3 | | 勉強会等を実施している | 研修情報は多くあるが、全てには参加出来ていない⇒幅広い知識や情報を得るためにも、積極的に参加を心掛けていく | |
| 適切な 支援の 提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 4 | | | 情報共有を行いながら、様々な状況での児童の様子観察や課題分析を行うように心がけている。 | | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | | | 4 | | アセスメントシートを使用はしているが、項目が利用児童に合っていないものがあり上手く活用できていない⇒項目等の見直しを行い、より状況把握ができるアセスメントシートを使用していく。 | |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 3 | | 1 | | その日の利用人数や児童の特性・課題などを考慮し目的を持った活動内容を心掛けている | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 2 | | 2 | | | 児童の好きな活動や苦手意識のある活動など様々な組み合わせを取り入れながら固定化に繋がらないように心がけていく |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 2 | | 2 | | | 課題の設定は行っているが、細やかさに欠ける面がある⇒課題設定の際には決め細やかに設定出来るように職員間の共有を行う |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 2 | | 2 | | 個々の課題に添って個別・集団活動を取り入れながら支援を行うように作成している | |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 2 | | 2 | | 朝のミーティングで前日の児童の様子の再確認を行い、その日の支援内容や役割を確認するようにしている | その日の支援内容の役割分担の確認が不十分な時がある⇒役割分担までの確認を徹底しスムーズな支援を目指す |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 4 | | | | 終業前にミーティングを行い、その日の児童の様子や保護者からの引継ぎ内容の共有を行っている | |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 4 | | | | 支援内容を記録・振り返りを行いながら支援に繋がっている | |
| 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 4 | | | | モニタリング会議を用いて支援内容の再確認や新たな課題の共有化を図っている | | |
| 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | 1 | | 3 | | 行事を通して地域の事業所等と交流やボランティアの受け入れを行っている | 放課後学童クラブや児童館を利用する児童との交流が出来ていない⇒行事や長期休暇等を活用して交流を行えるようにする | |

| | | | | | | | | |
|----------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|---|---|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関係機関 や保護者との 連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 4 | | | 児童発達支援管理責任者が会議に参加するが、要望があれば担当職員も一緒に参加出来るようにしている | | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | 2 | 2 | | お迎え時の引継ぎ時に連絡調整を行っている。必要な場合には学校へ電話連絡を行い事故や怪我等の情報共有をしている。 | 学校によって担任と話しが出来ない、若しくは保護者からの連絡調整を希望される場合がある⇒ | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | | 4 | | | 医療的ケアが必要な児童の受け入れ態勢が整っていない⇒今後、要望があれば対応の検討をしていきたい |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 1 | 3 | | | | 保育所や幼稚園等との情報共有は行っているが、児童発達支援事業所を利用した児童が在籍していない⇒今後児童発達支援事業所の利用があった児童の受け入れ時には情報共有・相互理解に努めていく |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 4 | | | | 福祉サービス事業所や他デイサービス事業所への移行時には計画相談員も含めて支援内容や課題達成度等の情報提供を行っている | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 1 | 2 | 1 | | 県中部療育センターの障害児等療育支援事業を通して施設支援指導事業を活用している | 発達障害者支援センターの講師依頼を検討していたが、まだ調整が進んでいない⇒改めて職員や保護者の意向を踏まえて専門機関の研修等を考えていく。 |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | 1 | 3 | | 公園活動で居合わせた地域の子もと一緒に遊べるようにしている | 児童館の施設利用はあるが、子供たちとの交流が図られていない⇒行事や長期休暇時に施設利用を兼ねて交流が持てるように検討・調整を心掛ける |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | | | 4 | | 市自立支援協議会子ども部会のワーキンググループに参加し児童系サービス事業所の大運動会に参加した | 自立支援協議会の参加が出来ていない⇒開催日程などの把握に努め参加出来るように調整を行って行く |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 3 | 1 | | | 連絡帳や便り、送迎時を活動して共通理解や統一した支援を心掛けている | 保護者との情報共有を心掛けているが、未だ十分ではないように感じられる⇒細目に発達状況や課題の確認・共通理解を持てるように保護者と伝え合っていくようにする |
| 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 1 | | 3 | | 職員がペアレントトレーニングの内容を理解することを第一に考え、研修に参加した | ペアレントトレーニングの情報等の提供は必要に応じて行っているが、職員のペアレントトレーニングに対する知識が不足している⇒職員が積極的に勉強会や研修に参加しペアレントトレーニングの技能の理解・習得を図る | |
| 保護者への 説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 3 | 1 | | | | 丁寧な説明を心掛けているが、福祉サービスを始めて利用される場合は利用者負担等の質問が後日ある場合もある⇒その都度、具体化し解りやすい説明を心掛けサービス利用に関わる不安を除けるようにする |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 1 | 2 | 1 | | 相談や希望があれば来所や電話等で対応を行っている。必要に応じて計画相談員を交えて意見交換を行っている。 | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | | 1 | 3 | | 親子行事を取り入れながら保護者同士の紹介を行い、横の繋がりが出来るよう取り組みを始めた。 | 児童の学年や診断名、通う学校によって情報共有の内容が異なる点や、保護者中心となる父母の会等の立ち上げ・開催に関していくつかの意見があり意向に添えていない状況がある⇒保護者の希望を聞き取りながら父母の会活動の支援や保護者会の意図を明確にする事で実施出来るようにしていく |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 1 | 3 | | | | 苦情等があった際には改善出来るように情報の共有や改善方法などを話し合っているが、時間を要してしまう場合がある⇒早めの改善を心掛け児童や保護者の不安を除けるようにする |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 4 | | | | 毎月発行の便りには、様々な写真を取り入れながら児童の表情や様子が分かるように心がけている | |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | 4 | | | | 個人情報の漏洩に十分注意し活動写真の掲載や外出支援時は事前に許可を得るようにしている | |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 4 | | | | 必要に応じて連絡帳の記入はひらがなや読み仮名を付けるなどの対応を行っている | 保護者との情報伝達が共有されていない事があった。情報伝達の滞りが無いように、職員間での情報共有・確認を再徹底する必要がある |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている | 4 | | | | 毎年、児童の作品展示販売会を開催し、商業施設にポスターを貼る等して地域の方々が来所出来るようにしている | 展示販売会の広報を行っているが、地域の方々の来所は少ない現状がある⇒ポスター掲示を商業施設に限らず、保育や教育の場にも協力依頼を行い、興味・関心を持ってもらえるようにする |

| | | | | | | | |
|---------|----|--------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 2 | 2 | | マニュアル策定はされており職員の周知は行われているが、保護者にはその詳細が十分に周知されていない⇒事業所で策定・使用するマニュアル内容の詳細を保護者に周知していく | |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 4 | | | 年2回、9月と3月に防災訓練を行っている。不定期ではあるが市の防災研修センターの利用も取り入れている 防災訓練の実施はしているが、保護者へ周知出来ていない⇒便りや引継ぎ時・連絡帳等すべてを通して保護者へその様子を伝えていく | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 3 | 1 | | 毎年、県の虐待防止研修に参加を行っている 研修参加以外での勉強会が不足している⇒定期的な勉強会を事業所で出来るように計画をしていく | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | | 3 | 1 | | 今後は危険回避が難しい児童の場合、緊急時等に備えて口頭での説明・了承を得ているがサービス計画への記載がされていない⇒今後は保護者への説明・了承を得てサービス計画への記載を行う |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 3 | 1 | | 医師の指示書を保護者から頂き、アレルギー項目が使用されていないおやつを提供や弁当・おやつを持参を協力してもらっている | |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 2 | 2 | | | 事例集の作成は出来ていないが毎日のミーティング時に共有・対応(改善)方法を話し合っている⇒今後は記録に残しながら、その都度振り返りやより良い改善に繋がるようにする |